

第5学年2組 図画工作学習指導案

指導者 高橋 麻美

1. 日時・場所 平成19年12月5日(水) 第5校時 2階 図工室

2. 活動の指針(活動を通して育てたい力)

b - ふくらむ思い

感じたことや想像したことなどを形や色で思いのままに表す活動を楽しみ、より心地のよいもの、美しいものへと新たな思いをふくらませながら表すことを大切にしていく。

3. 題材名 「ほって 刷って」～5年・8時間扱い～(絵に表す)

4. 活動の指針と題材のかかわり

とても活発で、自分の意見をはっきりと述べられる子どもが多いクラスである。図工の時間を楽しみにしていて、「いつ図工の時間はあるの。」「もう1時間やりたい。」など言い、毎時間積極的に授業に取り組んでいる。

「小学校の図画工作科の学習内容には、「見たこと、感じたこと、想像したこと、伝えたいことなどを絵や立体に表現したり、工作に表したりする」という項目がある。個性を生かした多様で創造的な表現活動が促進される中で、子どもたちが自分に適した表現方法を主体的に選んで絵や立体や工作に表現する活動が望まれている。特に、高学年になると、新しい表し方や新たな表現方法、また、手応えのある活動に意欲をもつ傾向が見られるようになる。」(遠藤 建生 図工科学習指導案 引用)そのことから、表現方法を広げる意味で版による表現を学習することにした。子どもたちは低学年で紙版画(凸版)を経験し、紙をいろいろな形に切り、貼り合わせ刷ることで、表現する技法の範囲を広げている。4年生になり、単色刷りの木版画を経験し、版を彫り上げる活動の楽しさや、彫刻刀の使い方にも触れている。そして今回学習する木版画(凸版)の、一版多色刷りは白黒の木版画とは違い、色をつけることで絵の表現の幅を広げることができる。また一枚目刷った色と少し変えた色にしてみたいと思ったときは、二枚、三枚刷れるため、工夫しだいで表現の幅が広がる題材である。

本単元では、「一版多色刷り版画」の手法で「お話の世界を広げよう」ということにした。日常生活の中から心に残ったことを題材につくることも考えたが、とても本好きな子どもが多いので、本の中の世界の方が想像力を働かせることができるのではないかと考えた。さらに、鮮やかな色彩と独創的な表現を期待することができ、子どもたちの発想の力が生かされるのではないかと考えた。お話の世界を版画にし、色を想像してつけることで、子どもたちが創意工夫し、子どもの表現活動への意欲を高めることができる。そして版で表すこと自体の楽しさや考えたり工夫したりすることの面白さを味わわせることができるであろう。子どもたちが聞いたお話のイメージが版でしっかり表現できるよう下絵の段階から、表現したいもの(主体)が何かというのをはっきりとするよう言葉をかけていきたい。さらに色をつけることによって、作品のもつ世界が広がるということを指導していきたい。また、一色、二色と色を重ねることによって立体感があったり、作品のもつイメージが明るくなったりという一版多色版画の特性を活かした活動ができるよう支援していきたいと考える。

5. 「思いをふくらます創造的な技能」のための具体的な手立て

まず始めに導入の工夫を考えた。白黒の木版画と一版多色版の作品を見せ、それぞれのもつ作品のよいところを考える時間をとることにした。子どもは、白黒版について「色がついていないので、すっきりしていて絵がはっきりする。」や「彫った後の木目が見えていてきれい。」などの意見を出すと思われる。それに対し、一版多色版は「白黒より作品が明るくなった感じがする。」や、「想像がふくらむ感じがする。」などの意見が出ると思われる。そして、もう一つの工夫として、グラスの中のジュースがいろいろな色をつけたことによって、ソーダー水、オレンジジュース、グレープフルーツジュースに変わるということ、参考作品を使って説明したい。一つの版から、色を変えることによっていくつもの作品ができるのが一版多色版画のもつ素晴らしいところである。この活動から、子どもたちの自分もやってみたい。版画に色をつけるとどうなるのかな。などの興味・関心をひきつけたいと考える。さらに、4年生で学んだ白黒の木版画は、面彫りだったが、今回取り組む一版多色版は、線彫りである。彫ったところが白い線ではなく、黒い線として出るため、仕上がる作品の印象が単色刷りと違って来るであろう。子どもたちには、線彫りしたところが黒い線として残ることをしっかりと伝えておき、作品の仕上がりをイメージしながら作るよう声をかけたい。

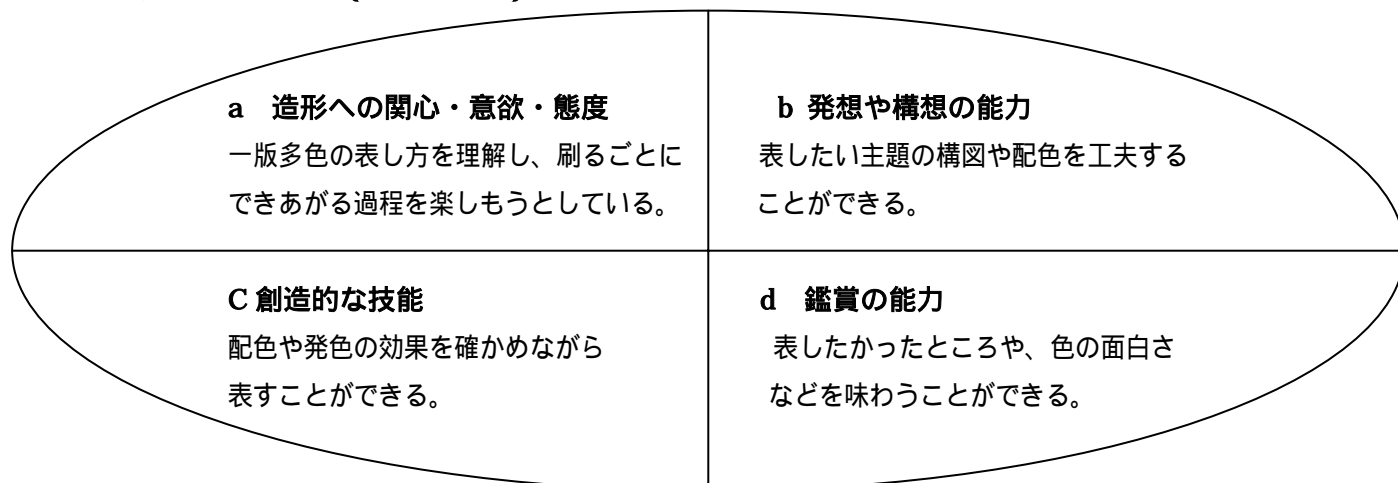
そして、題材としてお話の世界を取り上げることで、色を効果的に使えるようにしたいと考えた。日常生活の世界だと、子どもたちは、土は茶色だから、茶色一色で塗ろう。空は水色だ。などの固定概念で表現してしまうことがあると思われる。しかし本の世界にすれば、自分で想像した絵や色を創り出すため、作品の世界が広がるのではないかと考えた。そのために三つのお話(「火の鳥」「花さき山」「コーラルの海」)を読み聞かせすることにした。この三つのお話は、挿絵が、作品の中に色を描写している部分が出てくるため子どもが色を想像しながら、絵を描けると考えた。また、挿絵を見せずに読み聞かせをすることで、子どもたちが想像力をはたらかせ、思い思いの作品を作り上げることができるのではないかと考えた。

その他に、毎時間の活動を振り返られるよう「図工一言日記」を書くことにした。毎時間の子どもの気づきや、次時に子どもが行いたい活動を教師が把握しておくことで、的確な指導ができ、子どもの思いもさらに広げる支援ができると思われる。そして、一枚刷るだけでなく、何度も何度も色をつけて刷ることで、子どもの「明るい絵を表現したい。」「こんな色を表現したい。」という作品に対する思いをふくらませながら、作品をつくり上げていく喜びを感じとれるようにしたいと考えた。

6. 課題のねらい

表したい主題に合わせて、構図や配色を工夫する。

7. 題材の評価規準(重視視点)



8. 準備

子ども・・・彫刻刀、油性ペン、新聞紙、汚れてもよい服装
 教師・・・版木、版画用紙、版画用具一式、ポスターカラー

9. 指導計画と評価計画（8時間扱い）

時間	活動内容 予想される子ども	教師の働きかけ 評価規準・評価方法
一次 (45分)	<div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">一版多色刷り版画を知ろう！</div> <p>白黒版と一版多色版画の違いを知る。 両方の作品の良さについて発言している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白黒版はスッキリした感じがしていいな。 ・一版多色版は色がついているから明るい感じがするよ。 <p>参考作品を見て、一枚の版から、違う色にしたことによって、違った版画になることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オレンジジュースがサイダーになったよ。 ・次はグレープフルーツジュースだ。 <p>一版多色版画を本の中から表現することを伝える。本を3冊読み聞かせし、印象に残っている場面などを描きとめておくように伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーラルがクジラと遊んでいるところのように。 ・火の鳥が飛んだところのようにしようかな。 <p>図工一言日記をつける。</p>	<p>参考作品を見せる。</p> <p>一版多色版画の作品を見せ、一版多色版画をすることを知らせる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; text-align: center; margin: 10px 0;">【関】つぶやき・発言</div> <p>子どもたちが今日の時間にどんなことを感じたか、次時にやりたい活動などを把握しておく。</p>
二次 (90分)	<p>描きとめておいた絵をもとに、表したいものが明確に伝わるように、構成を工夫したり、省略したりする。</p> <div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px; margin: 10px 0;">下書きをしよう！</div> <p>版木に下絵をかく。 考えながら下絵を描いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は、「花さき山」に行ったあやの姿を書こう。 	<p>参考作品を見せながら、彫ったところが黒い線として残ることを知らせておく。</p> <p>版に表すことを予想し、下絵の段階で細くなりすぎないように指導する。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・細かい絵になりすぎないように注意しよう。 ・版画は写した時に反対の向きになるから、気をつけてかこう。 <p>何をかいていいか思いつかない。</p> <p>図工一言日記を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日は下絵ができてよかったな。 ・この絵に色をつけたらどうなるのかな。 	<p>彫ったあとが、見やすいように、版木に色をつけたりするが、本題材の場合は版木にかいた線を彫るのでここでは薄く色をつけることは省略する。</p> <p>何をかいていいか思いつかない子のためにお話をもう一度読んであげる。</p> <p style="text-align: center;">【発】【技】活動の様子 作品</p> <p>下絵の線が細くてわかりづらい場合は、油性のサインペンで見やすいように線がきくよう伝える。</p>
<p>三 次 (9 0 分)</p>	<p>彫刻刀の使い方や種類を復習する。 彫刻刀の使い方について考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・彫刻刀は両手を使って彫るんだよ。 ・彫刻刀の刃は絶対人に向けてはいけないよ。 <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">線を彫刻刀で彫ろう！</p> <p>線を彫刻刀で彫る。 表したい線を考えながら彫っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頑張って彫ろう。 ・彫刻刀はどれを使おうかな。 <p>・髪の毛や細かい部分は三角刀を使うようにしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太い線は小丸刀を使うといいんだね。 ・山の線は小丸刀を使うことにしよう。 <p>彫り方が分からず困っている。</p> <p>図工一言日記を書き振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・線彫りだから早く終わったよ。 ・早く色をつけてみたいな。 	<p>4年生で習ったことを思い出すよう声をかける。</p> <p>色の美しさが全面に出る版画だが、画面を引き締めるのは、彫刻刀の彫りあとの線である。彫刻刀を選び、あまり下絵にこだわらずに、もう一度彫刻刀でかくつもりで彫るよう伝える。</p> <p>基本的には三角刀で、ある程度深く線彫りする。しかし線が細すぎると、彫り後に絵の具がたまったり、隣にはみ出したりしてしまうので注意するよう伝える。</p> <p>太くははっきりさせたい線は、小丸刀を使うよう指導する。しかし、あまりストレートな線(うどん彫り)にならないよう助言する。</p> <p>試し刷りの版を使い、いろいろ試すよう促す。</p> <p style="text-align: center;">【発】【技】活動の様子 作品</p> <p>子どもの振り返りを読み、今日の学習でできたこと、できなかったことを把握する。</p>

<p>四次 本時 (45分)</p>	<p>版紙を版木にセロハンテープで止める。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">お話の世界に色をつけよう！</p> <p>教師が見本を見せる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すごい。色がついたね。 ・きれいだな。 ・私もやってみたいな。 <p>版に色をつけ刷ってみる。</p> <p>自分の表現したい色をつけている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここは赤色にしてみよう。 ・黄色に白を混ぜて塗ったら、どうなるかな。 ・このところが色が重なって立体的に見えるね。 <p>どんな色にしたらいいか迷っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何色にしていいか思いつかないよ。 <p>水をつけすぎて絵がにじんでしまう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵がにじんでしまったよ。どうしたらいいのかな。 <p>図工一言日記を書き振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色をつけて面白かったよ。 ・次回は水の量に気をつけて、もっときれいに刷りたいな。 	<p>刷る紙は何度もめくる動きを繰り返すので、版木の裏からしっかり止めるよう指導する。</p> <p>最初は、うすい色で刷り、強調したい部分を、2回、3回と重ねるようにすると立体感が出ることを伝える。</p> <p>どの色にも白色を混ぜると、不透明な感じになりきれいに見えることを伝える。</p> <p>活動が停滞している子には、教師が感じた色の良さや美しさを伝えたり、友だちの活動に着目したりして活動の意欲を喚起する。</p> <p>水の量が多すぎると、絵がにじんでしまうので気をつけるよう声をかける。</p> <p style="text-align: center; border: 1px dashed black; padding: 5px;">【発】【技】活動の様子 作品</p> <p>子どもの振り返りを読み、今日の学習でできたこと、できなかったことを把握する。</p>
<p>五次 (45分)</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">お話を紹介し合おう！</p> <p>作品カードに自分の作品の特徴や工夫したことを書く。</p> <p>作品カードに自分の思いをうまく表現しながら書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火の鳥の体の色を工夫したよ。 <p>カードを書くことができない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何も思いつかないな。 	<p>どんな本を選び、どういうところを工夫したかみんなに教えてあげることが伝える。</p> <p>どんな気持ちで作品を作ったのか聞き、話したことを文章にそのまま表現すればよいことを伝える。</p>

友だちと作品を見合っ、工夫したところ知ってもらいたいことなどを話し合う。

友だちの作品のいいところや工夫していることを気づいている。

気に入った作品をつくったお友だちに感想の手紙を書く。

図工一言日記を書き振り返りをする。

- ・ さんの色の表し方がきれいだったな。
- ・ またやってみたいな。

友だちの作品を見て、よいところや工夫しているところがあればどんどん相手に教えてあげるよう声をかける。

すべての子どもに手紙が渡るよう配慮する。

【鑑】活動の様子・作品カード・手紙

10 . 本時の活動と指導 (4 / 8 時間)

(1) 目標

配色を工夫し、色の効果や順番を考えて計画的に刷る。

(2) 展開

子どもの主な活動内容 予想される子どもの主な活動	教師のはたらきかけ 評価規準・評価方法
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> お話の世界に色をつけよう！ </div>	
<p>教師が見本を見せる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すごい。色がついたね。 ・きれいだな。 ・私もやってみたいな。 <p>版に色をつけ刷ってみる。</p> <p>自分の表現したい色をつけている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここは赤色にしてみよう。 ・黄色に白を混ぜて塗ったら、どうなるかな。 ・このところが色が重なって立体的に見えるね。 ・どんな色にしたらいいか迷っている。 ・何色にしていいか思いつかないよ。 <p>水をつけすぎて絵がにじんでしまう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵がにじんでしまったよ。どうしたらいいのかな。 <p>作品に色をうまくつけられない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さんの作品は色が重なり合って立体的に見えるな。 ・赤や緑は明るい色できれいだな。僕もそのようにしてみよう。 <p>図工一言日記を書き振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色をつけて面白かったよ。 ・次回は水の量に気をつけて、もっときれいに刷りたいな。 	<p>最初は、うすい色で刷り、強調したい部分を、2回、3回と重ねるようにすると立体感が出ることを伝える。</p> <p>どの色にも白色を混ぜると、不透明な感じになりきれいに見えることを伝える。</p> <p>水の量が多すぎてしまうと、絵がにじんでしまうので、あまり水を入れすぎないように声をかける。</p> <p>活動が停滞している子には、教師が感じた色の良さや美しさを伝えたり、友だちの活動に着目したりして活動の意欲を喚起する。</p> <p>水の量が多すぎると、絵がにじんでしまうので気をつけるよう声をかける。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> 【発】【技】活動の様子 作品 </div> <p>友だちの作品のよいところに気づき、自分の作品を作る時の参考にするよう声をかける。</p> <p>子どもの振り返りを読み、今日の学習でできたこと、できなかったことを把握する。</p>

